



新明小だより

学校教育目標 やさしく・かしこく・元気よく

～新たな挑戦 明るい未来へ 希望あふれる新明小学校～ 校長 稲村 浩之

東松山市立新明小学校
学校だより
2月号
令和8年2月1日



校庭に吹く冷たい風の中でも、子どもたちは友達と笑顔で走り回り、教室では「できたよ」「わかったよ」と目を輝かせながら学んでいます。2月は一年のしめくりに向けて、自分の成長を確かめる大切な時期です。毎日の小さな頑張りを大事にしながら、次の学年へ希望をもって歩んでいけるよう、学校全体で子どもたちを温かく見守ってまいります。

向かい風があるから飛び立てる ～2月のお話集会で児童に話しました～

2月になり、冷たい風が吹く日が続いています。朝、校庭に立っていると、思わず肩をすくめてしまうような風を感じることもあります。

今月のお話集会では、「風」を利用して飛び立つ飛行機のお話をします。

私は飛行機が好きで、ときどき空港に行くと、飛行機が飛び立つところを見ることがあります。ゴーッという音とともに、滑走路を走り、やがてふわっと空に浮かぶ瞬間は、何度見ても心が動かされます。

ある日、空港で飛行機を見ていると、「どうして、飛行機はいつも同じ向きに走ってから飛び立つんだろう？」と不思議に思いました。

たまたま近くにパイロットの方が居たので聞いてみると、こう教えてくれました。

「多くの滑走路は、風が吹いてくる方向に向かって作られているんですよ。」

飛行機は、追い風ではなく、向かい風を受けた方が、しっかりと空に浮かぶそうです。

風は大変そうに見えますが、その風があるからこそ、飛行機は高く、力強く飛び立つことができることを知りました。

この話を聞いて、私は、世界で初めて飛行機を飛ばしたライト兄弟のことを思い出しました。

ライト兄弟の挑戦は、最初からうまくいったわけではありません。何度も失敗し、「無理だ」と言われる中でも、決してあきらめることなく挑戦を続けました。

失敗や苦労は、ライト兄弟にとっての向かい風だったのだと思います。でも、その向かい風があったからこそ、空を飛ぶという大きな夢を実現することができました。

皆さんも、「勉強が難しくていやだな、上手くいかないな、自信がなくなるなあ。」と途方にくれる時があるかもしれません。

その時こそ、これは、自分を成長させてくれる風が吹いているんだと思って、その風に向かって勇気をもって一歩進んだとき、新しい景色に出会えることでしょう。

寒さの厳しい2月ですが、皆さん一人一人が、向かい風を大きな力に変えて、空高く飛翔していけるように応援しています。

ほがらかに頑張りましょう。



【校長室の窓より ～戦後80年 平和を見つめる学び～】

戦後80年の節目を迎える本年、東松山遺族会の渡邊様、磯崎様、小谷野様をお招きし、戦争の残酷さや、残された遺族の悲しみ、苦しみについてお話をいただきました。

お話を通して、子供たちは「日本は二度と戦争をしてはいけないこと」「平和は当たり前ではなく、守り続けていく大切なものであること」を、深く学ぶことができました。